

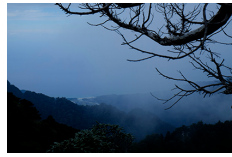
a002020	永田区 永田岳岳参り	概要 適用
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 長享2年(1488)、日増上人は自ら御岳に登り、7日間に渡って山にこもり、法華経を唱え続け、お堂にお札を納めた。すると、お堂がにわかに震動し、どこからともなく白い鹿が現れ、日増上人に礼をして消えていった。 ・ 白い鹿は山の神の化身と言われている。 ・ 奥岳の鳴動も疫病もそれ以来おさまったと言われている。 ・ 以降、御岳のご神体である彦火火出見命は、菩薩の位である「一品宝珠大権現」として祀られ、屋久島の守護神とされた。これ以来、神と仏が併せて信仰されるようになった。 ・ 日増上人が登った山が永田岳で、ここから本格的な岳参りが始まったと言われている。
<p>a002020001) 永田岳岳参り</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 春と秋(5月末と11月頭)に岳参りが行われている。 ・ 島内で唯一、浜から頂上まで歩く岳参り。標高差 1886 メートル。現在行われている屋久島の岳参りで最も過酷なもの。
		
<p>a002020002 永田岳橋</p>	<p>a002020003 前浜</p>	<p>a002020004 前浜</p>
		
<p>a002020005 前浜</p>	<p>a002020006 永田岳岳参り風景</p>	<p>a002020007 永田岳岳参り風景</p>
		<p>参考文献 「図説屋久島」</p>



a002020008
永田岳岳参り風景



a002020009
永田岳岳参り風景



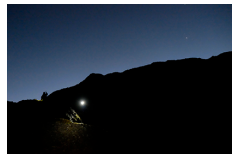
a002020010
永田岳岳参り風景



a002020011
屋久杉の森



a002020012
永田岳岳参り風景



a002020013
永田岳岳参り風景



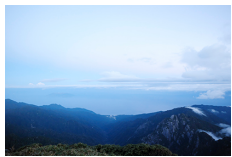
a002020014
永田岳岳参り風景



a002020015
永田岳岳参り風景



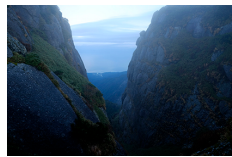
a002020016
永田岳岳参り風景



a002020017
永田岳山頂から永田集落



a002020018
永田岳岳参り風景



a002020019
神様のクボから永田集落

写真コメント

- a002020001.JPG 永田岳岳参り
- a002020002.JPG 永田橋にかけられるのぼり。
- a002020003.JPG 公民館に集まってから前浜へ。
- a002020004.JPG 竹筒に前浜の砂を入れる。
- a002020005.JPG 竹筒。
- a002020006.JPG 前浜から歩き、永田岳神社に参拝する。
- a002020007.JPG 永田歩道の入り口にある看板。
- a002020008.JPG 標高の低い所はヘゴの樹もある。
- a002020009.JPG 竹の辻にてお昼ご飯。それほど開けた場所ではない。
- a002020010.JPG 桃平(ももんた)の岩から永田集落。
- a002020011.JPG 桃平近くの森。屋久杉やヤマグルマの深い森。
- a002020012.JPG 七つ渡し。増水すると渡れなくなる。
- a002020013.JPG 鹿之沢小屋に泊まり、朝陽が登る時間に合わせ頂上を目指す。
- a002020014.JPG 夜が明ける前に頂上付近に到着。
- a002020015.JPG 頂上より宮之浦岳。
- a002020016.JPG 永田岳山頂で朝陽を待つ。
- a002020017.jpg 頂上より永田集落。奥の島は口永良部島。手前の岩壁は障子岳。
- a002020018.JPG リーダーの荒田さん。
- a002020019.JPG 神様のクボから永田集落。
- a002020020.JPG 山頂直下の岩間にある祠。初穂料がたくさん集まる。
- a002020021.JPG 朝陽と岳参りをする人たち。バックは宮之浦岳。
- a002020022.JPG ローソク岩。
- a002020023.JPG 鹿之沢小屋前にて記念撮影。



a002020020

山頂の祠



a002020021

永田岳岳参り風景



a002020022

ローソク岩



a002020023

鹿之沢小屋



a002020024

岳参りのお出迎え



a002020025

坂迎え風景

a002020024.JPG 里に戻ってくると、お出迎えの人がちがたくさん待っていた。

a002020025.JPG 夜、公民館にて坂迎えが行われる。